

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】☐H23（A－Ⅱ）☐H24（Ⅰ）☒H24（Ⅱ）【AIMS】☐H25／

名古屋 大学

■プログラム名

ASEAN 地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

――以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主にご記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

ガジャマダ大学(インドネシア)、フィリピン大学ロスバニョス校(フィリピン)

■主な活動内容（概要）

上記大学と短期(約2週間、単位付与)・長期(約6ヶ月、単位互換)の交換留学を実施している(短期派遣はインドネシアのみ)。特に本学からガジャマダ大学への派遣生は、「日本法 SEND プログラム」の派遣生として、同大学で日本語を学ぶ学生に対する日本語学習支援や日本文化紹介など、SEND 活動を実施した。また、同大学の法学部生に対しても日本法を紹介するセミナーを開催するなど、日本法 SEND の特色が出る活動が実施された。

■プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください)

現状・課題

【交通手段(特にインドネシア)】

通学のための交通手段で、昨年度の長期派遣生が自転車を使用していたが、ガジャマダ大学が立地するジョグジャカルタ市は歩道が少なく、交通量が非常に多い車道を車とバイクを避けながら移動する必要があった。他に移動手段も少なく毎日タクシーを利用するわけにもいかないため、使用にあたり厳重に注意するよう指導している。

【寮】

派遣先大学に寮がなく(インドネシア)、また入居できなかった(フィリピン)ため、派遣生は学外のアパートを契約した。学生が契約した宿舎が小規模経営だったため海外送金を受け付けてもらえず、また本予算では学生への直接払いができなかったため、各地に出張者が出るときに支払うというイレギュラーな対応をする必要があり、非常に苦労した。

成功事例

【現地コーディネーターとの連携等による危機管理】

当初計画した通り、現地コーディネーター等との連携による危機管理体制が整備された。留学中に現地で派遣生がトラブル(自然災害を含む)に巻き込まれた際に、コーディネーター等が迅速に対応をすると同時に、逐次本学に報告が入った。結果、どの事例も大事には至らず、無事に全学生が留学生活を終えることができた。ガジャマダ大学に関しては、昨年度新しく名古屋大学インドネシア・日本法教育研究センターが設立されたことにより、現地の危機管理体制が一層強化された。